

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方針	学校関係者評価	学校関係者評価
確かな学力	A	1. 教員の指導力の向上	1. 教員の指導力を向上させる ・計画的な授業研究の推進	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	①全学年が講師を招聘し、探究的に学ぶ授業を公開を行い、授業研究する(7回) ②授業スタンダードを意識した授業を行う。 ③全学年学・学習調査と高知県学力定着調査後は迅速に結果分析し、改善策を実行する	○全国学力・学習調査結果が全国平均値+3p以上 ○高知県学力定着状況調査結果が高知県平均値+3p以上	○1. 全国学力・学習状況調査結果(全国平均比) 国語A+2.2P、国語B+10.5P、算数A+14.4P、算数B+6.1P ○高知県学力定着状況調査および標準学力調査は結果まち	○これまでの学力向上の手だてを継続していく	S
		2. きめ細やかな学習支援の充実	2. 特性のある児童に対応した指導ができる ・UDの視点を持つ授業スタンダードの確立 ・学習支援の手だての充実 3. 子どもが自ら取り組む自主学習ができるようにする ・家庭学習のサイクル化を図る ・児童が主体的に取り組む自主学習	子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①UDの視点を活かした「どの子もわかるできる授業支援の研修を行う」 ②講師招聘による特別支援教育の在り方の研修を行い、児童理解およびその支援方法を学び、支援を行う	○授業がよくわかる(肯定児童90%以上) ○授業スタンダードを意識して授業を行っている(肯定教員90%以上)	○肯定児童98% ○UDの視点に立つ授業における指導方法の工夫改善 香美市平均以上33/47項目 ○UDの視点に立つ授業の工夫改善の交流研修 ○支援会議等の充実(31回)	○UDの視点に立つ授業スタンダードの確立をめざす。特に情報伝達の工夫と児童の学習の動きに関する支援について改善する(情報の伝達) ○支援会、ケース会は継続して行い、そこで学んだことを他の児童支援にも活用する	
		3. 児童が主体的に取り組む自主学習の在り方研究	3. 子どもが自ら取り組む自主学習ができるようにする ・家庭学習のサイクル化を図る ・児童が主体的に取り組む自主学習	学校全体で予習・復習(宿題)の質と量をも高める取組	①家庭学習の在り方を工夫する ・児童が自己決定する自主学習の在り方を指導する	○家庭学習の在り方を工夫する ・児童が自己決定する自主学習の在り方を指導する	○家庭学習の実施時間(児98%、保84%) ○予習2学年で向上 復習4学年で向上 ○親子読書の取組を行い、親子で読書を楽しむことができた	○生活リズムチェックカードを活用し家庭と連携していく。 ○家庭学習のサイクル化をより進めていく	
豊かな心	A	1. 子どもたちの豊かな心の醸成	1. 特別の教科「道徳の時間」の内実実施 ①全学級授業公開②評価の在り方研究 2. 特別支援教育の充実 ①支援会議の年間計画による定期開催による情報共有と支援方法の共有と通級学級教員・SC、SSW、外部講師など関係各位と協働し、取り組む	1. 特別の教科「道徳の時間」の充実 ①道徳参観日の実施(指導と板書)②評価の在り方を研究する③道徳実践力育成する	○自尊感情(肯定的評価80%以上) ○自分のすんでいるところ(香美市)が好きである(肯定的評価80%以上) ○暴力行為発生率(0件) ○いじめ解決(100%) ○不登校発生率が高知県平均値以下となる ○QV値(承認)が1学期より2学期に向上する	○自己肯定感(③97.5%、④92.6%) ○自分のすんでいるところ(香美市)が好きである(⑤97.5%、⑥98.1%) ○道徳調査(全ての項目で90%以上) ○暴力発生率(0件) ○いじめ認知13件(解決100%) ○不登校児出現率(30日以上欠席者なし見込) ○QV値全ての学級で向上	○自己効力感を高める取組を継続する	A	
		2. 支持的であたたかな学級集団を育成する	①異学年交流の推進する(異学年交流、保幼小交流、小中交流、小高交流等) ②あたたかい集団作り ③専門機関との連携した児童支援を行う	2. 相手意識のある、あたたかい集団作り ①異学年交流の推進する(異学年交流、保幼小交流、小中交流、小高交流等) ②あたたかい集団作り ③専門機関との連携した児童支援を行う	○いじめ認知13件(解決100%) ○ネットの使用法について指導する	○きめ細やかな支援に関わる項目の評価は職員によりばらつきがあり、1年間を通して楠目小学校の考えを継続させる研修を行う必要がある	・昨年度の課題は達成された。 ・いじめ認知13件(100%解決)や不登校児(0%)は、学校の必死の対応が向われる。時々学校へお邪魔しても昨年の事が嘘のように明るく静かな雰囲気である。先生方の意識が、常に子ども達の上にあり、いじめの小さな事も逃さず、繰り返し対応されていると、頭が下ががる思い。「自己肯定感」「香美市が好き」共に97~98%と肯定的評価になっているのが好ましい。 ・どんな子ども・保護者・教員がいても、乱れる事のない学校にするためには、より細かな検証が益々必要になると思う。くじけず継続される事を期待する。 教科科化される「道徳の時間」で子ども、学校も、地域も共に良くなる。より豊かな心育てる事を期待したい。		
健やかな体	A	1. 健やかな体づくり	○健やかな体の育成を図る	1. 子どもが体を動かすことが楽しい体づくり ①外遊びの奨励 ②対外スポーツ大会への参加奨励 ③地域と連携したスポーツへの参加を奨励する(クラブ活動等)	○スポーツテストC評価以上の割合が高知県平均値以上(特に学年の評価D、Eの減少) ○各種スポーツ大会への参加者150名以上 ○地域と連携したスポーツ教室の実施やクラブ活動で地域連携ができた	○スポーツテストD、E判定はH28年度より6.5%減少(H28:18.3%→H29:11.8%) ○相撲大会(2回)、ひたたりマラソン大会、駅伝大会等への参加約150名 ○早起き(全校平均6.4%) ○朝食(全校平均99%) ○メディアコントロール2時間以内(82%達成) ○すくすく相談できめ細やかな支援ができた(のべ14回)	○体力向上と地域協働のスポーツへの取組は継続する	A	
		2. 「生きる力を育む」基本的な生活習慣の確立	○基本的な生活習慣の確立をめざす	①生活リズムチェックカード活用による基本的な生活習慣の確立を図る(生涯スポーツへの基礎を育成する)	○早寝目標値(65%以上) ○朝食摂取率(95%以上) ○メディア視聴時間2時間以内(75%) ○希望者に対して実施できた	○「早ね・早起き・朝ごはんは元気がずめっ子！」の取組を継続する。	・昨年度の課題は達成されている。 ・積極的に外遊びが出来ている。地域協働のスポーツ大会(相撲大会、マラソン、駅伝等)への参加約150名は素晴らしい。早起き、朝食、メディアコントロールの習慣づけも高い確率で実施出来ている。 ・次年度も、地域のスポーツ大会への挑戦を継続し、外遊びと共に、より一層の体づくりにも励まれる事を期待したい。 尚、自己申告の部分の問題点は本当にないのか、洗いなおしてみようか。		
保護者地域との連携	A	1. CSとなり、家庭、学校、地域が協働して子どもたちを育成	OH30年よりのCS開始に向けた準備ができる	1・H30年度からCSとして運営できる ①CSIについて家庭、教職員、地域が理解できる ②H30年度から地域協働学校本部の年間計画が作成できており、H30年から実施できる準備が整う	○運営できるための準備が整う ・CS開始のリーフレットを作成し啓発できた	○CS ・CSの運営組織、運営委員は決定 ・リーフレット作成中 ・保護者支援(42%) ・支援者のべ約300人 ○研究について(作成中) ○学びの発信 6年「ネットン井」の取組 6年 エルギー新聞・リーフレット作成 5年「香美市森上り隊」の取組	○CSを円滑に運営する ・年間計画の確認 ・CSの活動内容の周知(リーフレットを用いて保護者、地域) ・協力者の増加(特に保護者)	A	
		2. 香美市の豊かな教育資源を生かした探究的な学習が行われ、主体的に地域に働きかける	○主体的・対話的で深い学びの生活・総合的な学習の時間が行われている	2. 探究的な学習の推進 ①生活科・総合的な学習年間計画の見直しを行う ②本校のめざす教育の在り方構築する	○楠目小のカリキュラムができた(研究集録) ○生活・総合的な学習の時間の楠目小学校の考え方をまとめることができた(研究集録) ○学びを地域へ発信できた(各学年)	○H31年度生活・総合的な学習研究発表会(四国大会)に向けて研修会を行う ○発信はこれまで通り継続する	・昨年度の課題は達成されている。 ・H30年4月よりのCS開始に向けての準備が着々と積み上げられ次第に具体化しつつある事は喜ばしい。保護者支援42%、支援者延べ300人は、出発時としてはまずまずというところ。今後の支援者増加を期待したい。 地域との協働による、6年生「ネットン井」、エネルギー新聞、リーフレット作成。5年生「香美市森上り隊」の取り組みは頼もしい。 ・次年度はCSの円滑な運営に大いに期待したい。 保護者も地域の一員との自覚を高め、心からの支援体制を作り上げることが期待する。		
命	A	1. 安全教育的推進	○自らの安全に対する意識を高めるとともに安全な行動が取れる児童の増加	①自分の命を守る安全教育的推進 安全プログラム6時間以上実施、避難訓練3回以上実施、その他関係機関と連携した安全教室実施	①安全教育的な確実な実施 ○安全プログラム授業6時間以上実施 ○避難訓練3回以上実施	①安全プログラムの実施 ○授業時間(100%) ○避難訓練(3回済) 今年度は消防団の活動紹介も取り入れて行うことができた	○防災訓練を地域とともに行うなど地域との連携が必要である	S	
		2. 子どもの自立をめざす食育の推進	○子どもの自立を図る食育の推進(自分で食事を作ることができる) ○食と健康を関連させた教育を行う	②子どもの自立を目指す食育の実施(子どもが自分で作る炊飯、味噌汁づくり、自分で計画し自分で作るお弁当づくり) ③毎食の野菜摂取率が高くなる(60%以上)	②子どもの自立をめざす食育の推進 ○自分で朝食を作る(5年生以上100%) ○自分でお弁当を作る(6年生100%)	○自立をめざす食育の継続 ・自分でご飯を炊き、みそ汁と作る ②自立をめざす食育の推進(味噌汁5年100%)(弁当6年計画進捗100%) ③朝ごはん摂取(99%) 朝食で野菜摂取(中学生49%、高学年53%高知県平均約25%)	・昨年度の課題は十分達成されている。 ・安全教育(100%)、避難訓練(3回済)の実施。消防団の活動紹介が出来たのは有意義。 自立を目指す食育の推進は本当に凄いなと思う。(味噌汁5年100%)(弁当6年計画進捗100%)朝ごはん摂取(99%)朝食で野菜摂取(高知県平均の2倍)と成果を上げている。楠目小の特色としてアピール出来ればいいですね。 ・安全教育、食育ともに、次年度も取り組みを継続される事を期待する。 CSになれば、地域と共に防災訓練が実施できるかと期待する。		